

令和3年度第2回
岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和4年3月22日(火) 14:00~15:30
会場	こども発達センター体育館棟研修室 (Zoomを使用したWeb会議も併用)
出席者	早川文雄、岸本美紀、花田直樹、鍋田伸郎、外山克之、野崎敬子、平岩ふみよ、塩谷典子、川原場仁子
欠席者	水野智之、大賀肇、本田康英
事務局	こども部長：柴田伸司 福祉部障がい福祉課：青山潤子 保健部健康増進課：青山政美 こども部保育課：鈴木滋幸 こども発達医療センター：中村みほ、こども発達支援センター：山田由紀子 こども発達相談センター：杉浦基司、山本真由美、藤野晋爾、林尚子、小林広美、武田正道、清水裕介
議題	<p>1. 報告・協議事項</p> <p>(1) 令和3年度各検討部会からの報告</p> <p>①早期支援システム図 レインボーの会、にこにこきっず1、にこにこきっず2</p> <p>②就園後支援体制検討部会からの報告</p> <p>③就学後支援体制検討部会からの報告</p> <p>(2) 早期支援システムの課題と見直しについて</p> <p>(3) 令和4年度の発達センターの事業報告について</p> <p>①令和4年度発達相談センターの年間業務・行事予定について</p> <p>②令和4年度からの会議の変更点について</p> <p>③令和4年度からの各作業部会の開催について</p> <p>(4) その他 岡崎市の早期支援システムの名称について</p> <p>2. 連絡事項</p> <p>岡崎市の子育て期の発達支援情報について</p> <p>令和4年度の会議開催予定</p> <p>第1回 令和4年7月19日(火) 14:00~</p> <p>第2回 令和5年度1月17日(火) 14:00~</p>

あいさつ 柴田こども部長

議題1 令和3年度各検討部会からの報告

(1) 早期支援システムの報告

【相談センター小林】：当日資料 システム図について説明。

【健康増進課青山】：資料1-1説明。

【相談センター小林】：資料1-2説明。

(2) 就園後支援体制検討部会からの報告

【相談センター林】：資料2説明。

(3) 就学後支援体制検討部会からの報告

【相談センター武田】：資料3説明。

議題2 早期支援システムの課題と見直しについて

課題1 早期支援システムで早く発見はできるようになったものの、ここにこきつず1を卒業した子が、親子療育にかかるまでに時間がかかる。

【支援センター山田】来年度から1歳めばえの枠を土曜日に作っていく。今年度までは2歳児として4月から対応していたが、見学を早め1歳児途中からでも利用できるように検討している。

【幼稚園平岩】幼稚園に満3で就園する子が増えていると書いてあるが、そのことに対して、問題があるのか。

国からは、幼稚園にこども園化を進める方針が出ている。2歳児保育や6時まで見てほしいという依頼が来ている。保護者は幼稚園を有効に使う傾向と、少しでも早く預ける所がほしいという傾向がある。私立幼稚園はたくさんの課題を抱えている。

【相談センター山本】幼稚園には、親子療育に入るべき子が満3歳で就園するためつながらなかつたり、数か月で園に入っているという声も聞くが、園でしっかりと見ていただけてありがたい。相談センターでは訪問支援などしているので、そのような形で幼稚園の支援もしていきたい。

課題2 1歳6か月児健診以降不安になった保護者が、レインボーの会まで待てずに、かかりつけ医や総合子育て等に相談に行くことがある。相談センターにはつながってこない。

【小児科医会花田】相談センターを案内して良いということならありがたいが、当院ではあまり見ないし、それほどいないと思う。

【早川センター長】要観察のお子さんにはどうしているのか。

【健康増進課青山】全体にレインボーまで待てる方が多い。それまでの間で保健所

内容

に電話があったら地区担当の保健師が対応している。それでも待てない方は、相談センターで対応していただけるなら、保健所としても安心できる。

【相談センター山本】2歳前に相談センターの保健師相談を行い、レインボーに戻したり、専門相談、医療センターにつなげている。

課題3 にこにこきっず2の受け入れ枠の不足

【相談センター山本】議題1でも話したが、受け入れ枠が足りなくなる可能性がある。現状、一度つながったら卒業制度は無い。満3歳で就園したら卒業になるが、発達が伸びた子などは今後どうしていくか考えていきたい。

【NPO法人きらら野崎】今年度は、希望者が多くてにこ2に入れられないということはなかった。3月まで利用してもらうことは就園準備としてはいいと思っている。発達が伸びて必要なくなる子もいるので、現場で考えていきたいと思っている。満3歳入園が決まっていれば、最初からにこ2は必要ないと考えるので、どう勧めていくか。にこ2は、相談センターの専門相談から勧められて来た後、紹介しっぱなしになることがあるので、フォローしてほしい。

【相談センター山本】令和3年度までの子はいろいろな所からつながってきているが、新システムの子はにこ1でスクリーニングをされてくるのでそのような問題はなくなっていくと思う。めばえ、こころんに行った子の共有が出来ていないのは課題として出ているので、次年度以降、必要な時期に協同してやっていきたいと思う。

【相談センター林】誕生月や相談のタイミングで、にこ2の参加回数が少ないまま就園する子や、就園後療育が必要なことが分かったが、療育が無いことがある。今後の課題として、にこ2の就園後版が療育の補完的にあるといいと思う。

【早川センター長】そのようなニーズがありそうだと思う。就園後も続けられる場所についてまた検討して行ってほしい。

課題4 わかば(単独療育)の受け入れ枠が不足している。福祉の対象になってくる子の受け入れ枠が無いと、軽度の子の入る枠も圧迫し、無くなっていく。

【福祉事業団外山】今年度も本来ならわかばに入れるとよい子が入れなかった。主は知的障害の子を中心にしているが、肢体の子も入園している。しかし単独で預けられる場がわかばだけなので、仕方ない。働きたい保護者も増えているので、三河青い鳥とも検討を進めていきたい。また足りない枠についても、検討していきたい。

【早川センター長】三河青い鳥を誘致するときの覚書があり、青い鳥が単独通所を弾力的にやっていくとなっている。青い鳥のトップにも話してきた。肢体不自由児の単独通園を作ってもらおう方向で考えてもらいたい。

【相談センター杉浦】こちらの課題については、本年度こども部、福祉部で複数会

話をしてくて、単独施設が足りないこと、必要性は共有している。まだまだ課題が多く、現時点で具体的に公表できる段階ではないが、引き続き検討していきたい。併せて三河青い鳥との話し合いも県との確認を行い、要求を続けていきたい。

【早川センター長】わかばのキャパが増えれば、いろいろな利点が発達センターの運営にあると思う。

課題5 放課後等デイサービスの利用について。児童発達支援や放デイがいっぱいにつながれないことがある。必要性の少ない子もつながってきている。親子療育が必要な子は判断用紙も運用しているが、大きい子については難しい。重い子をつなげる事業所がない。

【早川センター長】放デイが人気。軽い子のほうが実入りは多いので、自然の現象と思う。

【福祉事業団外山】わかばにいくような重度の知的障害の行く子の場所がない。地域の普通級、支援級に行く子の行き場はたくさんある。報酬改定が3年に一度あるが、経営面の部分と療育の必要性と二つあるが、報酬改定でルールが変わるので、これが次年度になるので、少し改善されるだろう。各市ルールがあり、普通級の子は週3日までにするなど、調整している所もある。岡崎市でも検討していければと思う。

【NPO 法人きらら野崎】事業所を利用するのに受給者証は必ずしも必要ないのか。西尾では児発の利用時、受給者証の申請のための診断書がないとだめであった。1歳半とか2歳の子は診断書がなくても受給者証が出されるが、就学してからは診断書があるべきだと思う。

【早川センター長】手帳を持ってない軽度発達遅滞も対象となってきている。

【福祉事業団外山】岡崎市だと診断書が無くても、かかりつけ医の必要との言葉で出せる。それには良し悪しがあり、支援者側として必要と思っても、診断受容ができていない人だと、療育が届きにくい状況になる。保護者が診断書を取りに行く必要が出てくるとつながりにくくなることもある。

【相談センター山本】サービスを使うのに必ずしも診断書は必要はなく、かかりつけにかかっているかという聞き取りでやっている。にこ1の子は判断用紙を使って、目に見える形で渡してもらっているので、将来的にはそのあたりで判断してもらえるとよい。

【小児科医会花田】幼児なら、状況を把握した中で療育資源を上手に使うため、かかりつけ医にかかることはよいと思うが、学童では、小児科医では管理していない。小児科医も判断が難しい学童については、福祉の部署でルールを決めてもらいたい。

【早川センター長】医師の判断に基づくものとして、一番最初の段階でかかりつけ

医に判断用紙を書いてもらうことを始めている。更新の時に改めて判断いただく時期が来たら、ゲートコントロールに加わっていただけるかもしれない。

課題6 放デイに行っている子が、学校で情報が共有できていない。情報連携が難しい。

【教育委員会川原場】学校では、みどりのファイルを作っているが、上手に活用はできていない。みどりのファイルがうまく活用できるとよいと思っている。学校の先生に、聞いても、あまり聞いたことがない、使ったことがないというのが現状。

【幼稚園平岩】みどりのファイルは幼稚園も書いて、保護者が持っていく。時々、学校に共有ができているのかと思うことがある。学校から電話がかかってきて、書いたことを聞いてくることもある。幼稚園に学校の先生が見学に来てもらっていたが、コロナで電話連絡になってきたので、ニュアンスにより違いが出てしまうこともある。ファイルが一人歩きしないほうがいい。

インクルーシブという言葉も出ていたが、最近また重い子のはじかれるように戻ってきているように思う。

発達センターの役割は市民に対して、問題を具体的に、知らせていく必要があると思う。実際には子どもの数は減っている。その中で障害のある子のはじかれるのは、そういう子どもが増えているのか、子育て力が退化しているのか、悩む。この障害のある子をどのように社会が受け入れるか、難しい問題。

【福祉事業団外山】みどりファイルを活用する中で、情報共有のツールとして相互作用してない。みどりファイルだけでない、共有できるものがあるとよい。

【西三河児相塩谷】市内に重心の肢体不自由の小さい子の施設がない。保護者から「働くなということか。野垂れ死ねということか」と言われたこともあった。お子さんの療育を考えると、お子さんの状態に合わせた施設、サービスを考えていけないといけない。

【岡崎女子大学岸本】療育をしっかり受けてもらえるのが希望だが、園に入ってからつながるというルートも作らないと溢れてしまうお子さんもできてしまうので、どの子も育ちが促されるルートができるとよいと思う。

議題3 令和4年度の発達センターの事業計画について

【相談センター藤野】資料5、6、7説明

議題4 その他 岡崎市の早期支援システムの名称について

【相談センター杉浦】早期支援システムの名称だが、近年いろいろな場面で似た名称が使われるようになってきた。こども子育て支援計画でも早期支援という言葉が

	<p>使われているが、本システムを指しているわけではない。今後はわかりやすくするために、本システム名を「早期発達支援システム」と変更していきたい。中身を変えるわけではなく、名称のみを変更する。</p> <p>連絡事項</p> <p>【相談センター小林】令和4年度岡崎市の子育て期の発達支援情報を作成した。庁内関係機関には御意見をいただきたい。また、市民に対し配布していただける機関には相談センターに依頼すれば、データまたは紙をお渡しできるので御活用いただきたい。</p>
<p>次年度 会議開催 予定</p>	<p>第1回 令和4年7月19日（火）14:00～</p> <p>第2回 令和5年1月17日（火）14:00～</p>